

# 新自由主義・連帯経済・コンヴィヴィアリティ

—メキシコ農村の事例から—

Neoliberalism, Solidarity Economy, and Conviviality:  
Cases from Rural Mexico

北野 収\*

Shu KITANO

## I はじめに

パブリックドメイン  
公的領域の計画を論じたジョン・フリードマンによれば、planningとは広義の政策（政府が行うものに限定しない）の目的の実現のための適切な手段の選択をすることであり、それは価値（value）概念と手段（means）概念の両方を結びつける営みであるという。彼は、planningの「4つの伝統」のひとつに Social Mobilizationを挙げている。ここでいうプランニング観は、究極的には下からの社会変革のための道筋の検討といえる<sup>1)</sup>。プランニングが現場からの社会変革のための営為を含むとすれば、その主体は政府・国家あるいは専門家に限定されない。地域住民、農民、そして彼らを現場で支援する人々のすべてが主体である。

本稿では、連帯経済というキーワードを手がかりとして、脱成長社会を築くための現場からの社会変革という観点から、南部メキシコの事例を概観してみる。

## II 連帯経済とは何か

連帯経済とは市場原理よりも人と人のつながりを重視する経済である。市場経済のグローバルな蔓延に伴い、カール・ポランニーがいうところの「実質経済」（相互扶助・互酬に立脚した貨幣を媒介としない経済活動）の崩壊への対案として、排除され、周辺化された人々や地域の自立とエンパワメントを通じて格差や不平等に抗していこうとする実践である<sup>2)</sup>。具体的な取り組みは様々だが、そこでは反功利主義的な精神が共有される。連帯経済の領域が拡大した経済社会は、脱成長・ポスト開発型の経済と親和的となり得る。具体的な取り組みとしては、協同組合、地域通貨、市民金融、NPO活動、地産地消など地域に根ざしたローカルな経済活動があげられる。近年ではフェアトレードなど国境を越えた連帯も注目されている。連帯の基盤は、とりわけ途上国の場

合は、村落共同体であることが多いが、活動の制度・組織化の段階では、目的・機能ベースのアソシエーションが不可欠となる。

社会科学において連帯という言葉が最初に用いられたのはデュルケームの『社会分業論』（1893）であり、連帯経済という用語の出自はジード『社会的経済』（1905）のなかに求められるという<sup>3)</sup>。両者ともフランス人であるが、実際には、連帯経済は西欧のみならず、南北アメリカ、アジア・日本、そして第3世界の至るところに自生してきた。国際問題評論家の北沢洋子は現代の連帯経済の潮流を以下の3つに分類する<sup>4)</sup>。適宜、筆者の解釈も交えて説明する。

第1の潮流は1980年代のラテンアメリカでみられた。ブラジル、メキシコなど多くの国が深刻な債務危機に見舞われ、対応策として世界銀行・国際通貨基金による構造調整が導入された。小さな政府と競争原理の徹底は、結果的に格差をさらに拡大し、農民、漁民、都市スラム住民、先住民族、女性を中心に貧困層の人々の生活を直撃した。こうしたなか、相互扶助や地域社会に根ざした協同組合、共同食堂、地域通貨などの運動が草の根レベルで活発化した。

第2の潮流は、1960年代の対抗文化の精神性や80年代の新しい社会運動の価値観を共有する先進国における実践と運動である。既存の価値観や仕組みに対する疑問に根ざしたオルタナティブな実践が展開されてきた。具体的には、エコビレッジ、有機農産物の産消提携、地域支援型農業（CSA）、地域通貨のほか、幾多のコミュニティビジネスがあげられる。

第3の潮流は、新自由主義、市場原理主義の矛盾や構造的暴力が顕在化するなかでの途上国と先進国という国境や経済格差を越えた国際的な連帯である。ヘレナ・ノーバグ＝ホッジらが推進するローカリゼーションの経験の国境を越えた共有のための活動の意義もこの文脈の

\*獨協大学外国語学部 Faculty of Foreign Languages, Dokkyo University

Key Words：1) 連帯経済，2) メキシコ，3) ローカリゼーション，3) コンヴィヴィアリティ，5) ポスト開発論

なかで見出すこともできる。

### Ⅲ 新自由主義とメキシコ農村

メキシコでは1980年代以降、民営化・自由化を基調とした新自由主義路線のドラスティックな構造調整政策(SAP)が実施されてきた。1982年に800億ドルの対外債務を抱えたデフォルト(債務不履行)宣言の後、ワシントン・コンセンサスに基づいた改革を受け入れることになった。農業・農村部門でも、1989年の国営コーヒー公社廃止に象徴されるように多くの補助事業が廃止された。メキシコ社会開発庁によれば、1984年に収入階層の上位20%、下位20%がそれぞれ総所得の49.5%、4.8%を得ていたのが、1994年にはそれぞれ54.5%、4.4%になる等、貧富の差は拡大した<sup>5)</sup>。

その後も1994年の北米自由貿易協定(NAFTA)加盟、2001年のプエブラ・パナマ開発計画(PPP)という国家横断型巨大開発計画、2005年の日本との経済連携協定の発効など、経済成長志向の「改革」が実施されてきた。71年間政権の座にあった右派ポピュリスト政党制度的革命党(PRI)は2000年に中道右派政権(国民行動党, PAN)に交代したが、新自由主義政策は継承された。

アメリカとの経済統合によって主食であるトウモロコシ生産が、1990年代のコーヒー危機によって小農にとって重要な換金作物であるコーヒー生産が、それぞれ大きな打撃を受けた。すでに2005年までの15年間に全農家の3割にあたる270万人が離農し、アメリカへの労働力流出(移民労働者化)に拍車がかかるなど、農村は深刻な問題を抱えている。

### Ⅳ 南部メキシコ・オアハカ州について

人口比と絶対数の両方で最大の先住民人口を抱えるのがメキシコ南部にあるオアハカ州である。一人当たり所得や非識字率も隣のチアパス州とともに国内で最も低いレベルにある。経済のグローバル化と新自由主義のなかで周辺化されている人々であり、地域である。

ラテンアメリカにおいて、メキシコはブラジルと並んで連帯経済が広範に展開している国である。ブラジルの連帯経済が「工業＝都市中心型」であるとすれば、メキシコのそれは「農業＝農村の開発」型である<sup>6)</sup>。その理由もしくは起源は、1980年代の債務危機よりも前の1960～70年代に求められる。先住民人口比率が高いチアパスやオアハカなどの南部諸州では、解放の神学<sup>7)</sup>の影響を受けたカトリック聖職者が早くから農村部に入り、伝道活動を行うかたわら、農民の組織化や社会開発の取り組みを展開してきた。また、オアハカ州のサボテコ民族運動のように、先住民運動が地域づくりの具体的な実



図1 メキシコの主要都市とオアハカ州の位置

出典：北野取『南部メキシコの内発的發展とNGO』(p.6)

注：網掛けおよび斜線はプエブラ・パナマ開発計画(PPP)の対象地域。

践を伴った形で展開するという土壌もあった。

農業生産的にいえば、オアハカ州の農村の多くは日本の行政用語でいうところの中山間地域あるいはそれ以下の条件不利地域である。州都オアハカ市周辺のオアハカ盆地は南北および周囲を2,000～3,000メートル級の山岳に囲まれている。こうした高地に、ミルパ(milpa)農業と呼ばれる自給の伝統農業と換金作物としてのコーヒーの生産を行う小農がコムニダ(共同体)を単位として、エヒド(ejido)とよばれる共同体所有地を共有しながら暮らしている。これらは、言語集団として16の民族に分かれる(オアハカ州のみ)。同州の自治体の約7割は、首長を正当選挙ではなく、法によって認められている先住民の伝統的な方法によって選出している。

このような地域において、連帯経済に立脚した地域づくり＝ローカリゼーションの豊かな取組みが、比較的狭い地理的空間のなかで高密度に展開されている<sup>8)</sup>。

### Ⅴ オアハカ州の事例

#### 1 カトリック教会と地域づくり

コムニダを中心とする先住民の共同体的な相互扶助の社会関係が今でも色濃く残るメキシコの農村には、宗教(カトリック)という社会的セイフティネットが存在する。もちろんキリスト教は外来の宗教であり、実際の村での生活ではキリスト教起源と土着宗教起源の風習が混ざり合った形で存在している。それでも、カトリック教会組織は村々の草の根レベルにおいて直接的に間接的に地域社会のセイフティネットとして機能している。

1960～70年代、ラテンアメリカのカトリック界は貧困対策、社会開発を重要課題と定め、教会組織ぐるみで様々な取り組みを展開した。当該分野の専門家を教会の名の下に招集し、各地域でプロジェクトが実施された。

その内容は、農業、植林、識字教育、農村手工業など生活経済の様々な分野に及んだ。こうした取り組みは1980年代に入って下火になったが、オアハカ州では1990年代初頭まで、教会主導の農村社会開発の取り組みが続けられた。取り組みに従事した専門家グループはその後教会から分離独立し、自らNPO（メキシコの法律ではNGO）を設立するようになる。コムニダと政府や国際機関の中間領域で機能する仲介型NGOとしての新しい役割を果たすようになった。多くは、財政面では政府の補助金や先進国の助成財団の援助に依存しつつも、いわゆる政府系NGOとは一線を画した理念に基づいた活動内容を展開しており、先進国のNGOよりもさらに草の根に近い領域で、村づくりの支援に取り組んでいる。

たとえば、司教の招集が契機となって1997年に設立された団体SIFRAは、オアハカ市近郊の地域で支援を展開している。ソソコトラン市で行われている「幸せを食べる」プロジェクトでは、地域の女性による食育ワークショップを実施し、ミルパ農業などの伝統的な食材を栄養面からも再評価し、輸入食材に頼らない地産地消型の食生活改善の教育啓蒙が行われている。また、女性グループにより、伝統食材を活用した新しい食品や子供向けの菓子が開発され、栄養面だけでなく、家計面での改善も報告されている。

## 2 住民参加型農村ラジオ局によるアイデンティティ戦略

農村的な文化が都市的なものに代替されていくように、途上国や先住民の文化が都市的なもの、先進国のものに精神的に従属し、劣等なものみなされてしまう。先住民であることの劣等感、コンプレックスは、近代化、経済成長への憧れとあいまって、オアハカの先住民族系住民の間に広く、深く刻まれている。地域のよさや文化的アイデンティティを、足元から見直そうというアイデンティティ戦略に関連した取り組みも、村づくりの一環として重要である。こうしたなか、住民参加によって運営される非営利の農村ラジオ局は重要な役割を果たす。

たとえば、州北部の山岳地域であるシエラフアレス地域では、コミュニティ財団(Fundación Comunalidad)というNPOが運営するラジオ局が、地域の若者がつくった音楽や地元の祭などの情報を発信し、地域を再発見する活動を展開している。同局の最大の特徴は、住民が誰でも参加・出演できる開放性であり、参加型双方向コミュニケーションによる住民の気付きを促そうとするユニークな取り組みである。

## 3 コーヒー生産者団体とフェアトレード

不安定な国際コーヒー市場やコヨーテと呼ばれる中間業者の買い叩きに抗するため、オアハカ州では、1990年前後から、小農生産者のネットワーク化と彼ら自身による協同組合やそれらを広域的に支援する連合会の設立がみられる。

オアハカ州コーヒー生産者調整機関(CEPCO)は、1989年に廃止された国営コーヒー公社職員、コーヒー小農らによって設立された団体で、自前の普及教育部門を持ち、販売・マーケティングのみならず、女性の副業支援など、コミュニティ社会開発も支援する州レベルの連合会である。現在は、有機栽培コーヒーのブランド化に力を入れている。

州東部のチマラパス地域を中心に活動するイスモ地域先住民共同体組合(UCIRI)は、1983年に設立された生産者団体で、有機コーヒーの生産、社会開発、医療事業に取り組んでいる。州東部の中心都市の一つであるイクステペック市にUCIRIの連絡事務所があるが、本部はそこから40キロ離れたラチピサという村にある。山奥の中に忽然と現れるUCIRI本部の施設(事務所、集会所、倉庫、加工場、医療施設など)の威容には目を見張る。世界最初のフェアトレード認証ラベルであるオランダのマックス・ハベラー(現FLO)は、このUCIRIとオランダのNGOとの出会いが契機となって考案された。フェアトレードとは、強者に有利に働く競争原理に基づく自由貿易に対するアンチテーゼとして、生産者と消費者がつながる産直貿易という性格を有する。

## 4 地域に貢献する人材の育成・供給

連帯経済の取り組みはそれぞれ自立的に発達したもののだが、地域に貢献する人材の育成と供給を行う、いわば「縦糸に対する横糸」のような取り組みもある。

オアハカ市内に事務所を構える異文化出会い・対話センター(CEDI)は1999年に設立された団体である。その名が示すとおり、異なる文化間の交流と相互理解を促進する団体である。活動の目的の第一は、オアハカの16の先住民族間の相互理解を醸成することである。第二は、アメリカ、ヨーロッパなど先進国の研究者と学生に「貧困層」といわれる先住民族や小農の生活の実態を理解してもらう活動である。先進国の価値観、都市や工業化の論理、物質文明といった尺度からみれば「貧困」以外の何物でもない人々は、実は、自然・文化の面で豊かな農的生活を過ごしていることに気付いてもらうというポスト開発論的なプログラムである。先住民族の文化、経済、社会、政治など各方面にわたる調査研究業務、ワークシ

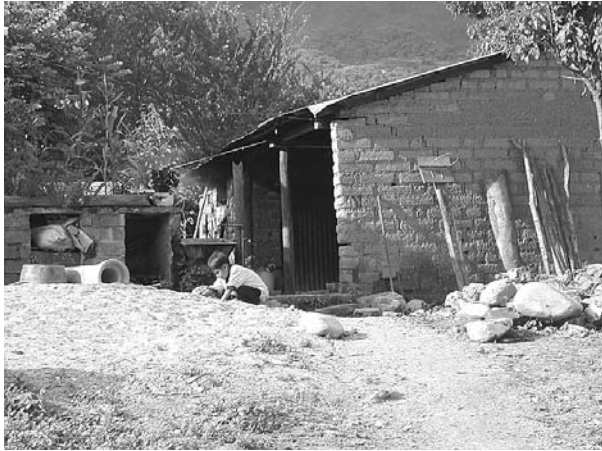


写真1 先住民民族ミヘ人の村にて

ヨップ、成果の出版、資料センターの運営なども行っている。CEDIは各種のローカルNGOへの支援や交流の場として機能し、NGO、市民団体、海外のNGOや研究者をつなぐネットワーク拠点、知のハブ機能を併せ持つ。

CEDIには、地球大学 (UniTierra) という、教育に特化したNGOが併設されている。職員、施設は同一である。正規の大学ではないが、地域づくりの寺子屋のような存在である。先住民民族や貧困層の青年が必要とする実用的かつ専門性の高い知識や技能を修得する機会を提供する。就学期間は6～30か月である。地域への具体的な貢献を念頭において、各学生がプロジェクトを設定し、それを通じて必要な技術や知識を習得する。

CEDI/地球大学のような団体は、現場で連帯経済の実践に取り組む人材の育成を担うとともに、各種団体間のネットワーク化の促進、海外の研究者・学生との交流など、人材・情報面におけるローカルとグローバルなものとの橋渡し役を担っている。

## VI むすび

以上はオアハカ州における多様な取り組みの一端である。しかし、かつての日本の村づくり・村おこしブームが所詮農的文化や環境の商品化によるミクロレベルの経済成長策であったように、オアハカにおける連帯経済の実践のすべてが、必ずしも脱成長的なオリエンテーションに合致するものではない。連帯経済の取り組みが、「脱成長を目的としない社会（<sup>デグロワサンス</sup>脱成長）社会）の創造へと再編成<sup>9)</sup>」されるのには何が必要だろうか。

その鍵となる概念は、1960～70年代にメキシコで活動したポスト開発思想家イヴァン・イリイチが提唱したコンヴィヴィアリティ (conviviality, 「共愉」) もしくは

「自立共生」という概念である。イリイチは、「産業主義的な生産性の正反対を明示するのに、私はコンヴィヴィアリティという用語を選ぶ。(略) この言葉に、他人と人工的環境によって強いられた需要への各人の条件反射づけられた反応とは対照的な意味をもたせようと思う。人間的な相互依存のうちに実現された個的自由であり、またそのようなものとして固有の倫理的価値を有するもの」とした<sup>10)</sup>。この少なからぬ部分は、イリイチ自身のメキシコのコムニダでの生活のなかで発見され、定義されたものである。ちなみに、前述の地球大学は、イリイチの弟子ともいべきメキシコのポスト開発思想家グスタボ・エステバがイリイチとの長年の対話のなかから得られたアイデアを具現化したものである。

オアハカにおける連帯経済の取り組みのすべてが、直接的にイリイチのポスト開発思想の影響を受けているわけではない。しかし、NAFTA等により新自由主義の草刈場であることを余儀なくされた現実がある一方で、現場には、コンヴィヴィアリティを豊かに育ててきた南部メキシコ独自の文化・歴史的土壌があり、グローバル経済における周辺化された者たちによる連帯という展開のなかに、脱成長社会に関する示唆が見出されるのは必然的なことであろう。

## 引用文献

- 1) 北野収 (2007): 「「参加」概念をとりまく思想と言説の検討」伊佐淳ほか編『市民参加のまちづくり・コミュニティビジネス編』創成社, pp.208-224.
- 2) 中野佳裕 (2010): 「セルジュ・ラトゥーシュの思想圏について」S・ラトゥーシュ『経済成長なき社会発展は可能か?』作品社, p.310.
- 3) 西川潤 (2007): 「連帯経済—概念と政策」西川順・生活経済研究所『連帯経済』明石書店, pp.11-30.
- 4) 北沢洋子 (2006): 「世界の潮流 連帯経済について」[http://www.jca.apc.org/kitazawa/undercurrent/2006/what\\_is\\_solidary\\_economy\\_2006.htm](http://www.jca.apc.org/kitazawa/undercurrent/2006/what_is_solidary_economy_2006.htm) (2011年2月22日).
- 5) 小倉英敬 (1999): 「現代メキシコにおける市民運動」『ラテンアメリカ研究年報』19, pp.117-150.
- 6) 山本純一 (2006): 「連帯経済—人間中心の経済の再生をめざして」『オルタ』2月号, pp.6-9.
- 7) 1970年代のラテンアメリカで発達した教義よりも貧困や人権にかかわる実践を重視する教派.
- 8) 詳細は、北野収 (2008): 『南部メキシコの内発的発展とNGO』(勁草書房) を参照されたい.
- 9) 中野前掲論文, p.311.
- 10) イリッチ, I (1989): 『コンヴィヴィアリティのための道具』日本エディターズスクール出版部, pp.18-19.

Key Words : 1) Solidarity Economy, 2) Mexico, 3) Localization, 4) Conviviality, 5) Post-Development Theory